

国際交流講演会実施報告書

2025 年 8 月 8 日

文学部教授 新本史斉

開催日時：2025 年 7 月 22 日 15 時 20 分～17 時 20 分

会場：明治大学駿河台キャンパスリバティータワー13 階 1135 教室

講演者：柿沼万里江（パウル・クレー・センター学芸員）

講演テーマ：パウル・クレーの両面作品

参加者数：14 名

実施報告：パウル・クレー・センター学芸員として、長年、美術史研究に携わってきた柿沼万里江氏が来日され、2024 年にチューリヒ大学に提出された博士論文の内容に基づき、パウル・クレーの 600 点にもおよぶ、裏面に素描、水彩画、油彩画が残されている、いわゆる「両面作品」の読解可能性について講演を行なった。

画材の節約などの経済的理由から、偶然、破棄された絵が残っていたかにも思われていたこれらの事象について、柿沼氏はパウル・クレーにおいて「作品」は、完成という静的な一点からではなく有機的・動的プロセスから把握されるべきものであること、その意味で両面作品の制作プロセスの解明は、「存在」よりも「生成」を重んじた画家の本性へのアプローチとなることを明らかにし、作品のモチーフ、構図、クレーの自作管理方法などを紹介しつつ、芸術家自身が創作の奥底に眠る秘密がいつの日か明るみに出ることを自覚していたと思われることを、明快かつ説得力のある言葉で解説してくれた。

テーマ自体はきわめて専門的なものであったにもかかわらず、クレー作品に長年たずさわってきた実地経験と、豊富な画像資料による解説のおかげで、講演内容は個々の作品の細部をめぐる分析も含め、受講者に十分に具体的に理解できるものであった。講演後は会場の学生、院生、教員、学外来場者から質問が続き、およそ 30 分にわたって白熱した議論が交わされ、その後の親睦会でも美術研究と文学研究の相違と類似をめぐって問いと応答が続いた。後日、提出された学生からの感想を柿沼氏にお届けしたところ、内容理解度の高さ、卒論テーマとリンクさせたオリジナリティーあふれる視点の面白さに、非常に手応えを感じたとの返信を得ることができた。

文学部の授業内容と密接に関係しつつも普段は触れる機会の少ない美術史分野のテーマ、しかも作家、思想家により言及されることの多いクレーについての講演であったこと、作品を熟知している学芸員による具体性の高い内容であったこと、何よりも柿沼氏の丁寧かつ熱心な姿勢が成功につながったのではないかと思う。スイスから来日くださった柿沼氏、前期通常授業最終日にもかかわらず、積極的に参加してくれた院生、学生、職員、教員の方々、学外から足を運んでくださった方々に心より感謝したい。